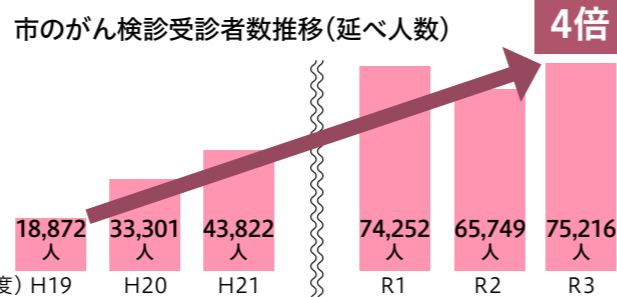


●がん検診受診者数は15年で約4倍に

市の主な取り組み

- すべての対象者に受診券を送付(H20年度～)
- 胃がん内視鏡検査を導入(H21年度～)
- 乳がん検診で30歳代を対象にエコー検査を実施(H25年度～)。また、マンモグラフィ検査で高濃度乳房と判定され、医師が必要と判断した人にも実施(H29年度～)。



●●受けようケンシン！●●

■検査はつらい？

例えば、胃がん検診。胃カメラ(内視鏡)と聞くと「つらい」というイメージの人もいると思います。しかし、今は局部麻酔や鼻からスコープを通す経鼻内視鏡などつらさを少なくする検査方法もあります。市は、平成21年度に県内でもいち早く内視鏡検査を取り入れ、導入前の平成20年度の胃がん検診受診者数が3,743人であったところ、令和3年度には1万5,838人になるなど、今では多くの人を受診しています。

■健診をきっかけに生活習慣を改善

健診の結果、生活習慣の改善が必要と指摘されても放置してしまったり、挫折してしまった経験はありませんか。市の特定健診では、健診結果を踏まえて、メタボリックシンドロームやその予備軍の人などに、保健師や管理栄養士などの専門家が運動習慣や食生活、喫煙など生活習慣を改善するためのアドバイスをします。皆さんのライフスタイルに合わせ、無理なく継続できるようご提案します。



■4月からケンシン！

4月から各種健(検)診を実施します。市は、対象者に受診券と「大和市検診・健診ガイド」を送付しています。時期、検査内容、自己負担額など知りたい情報がこの1冊に網羅されています。

また、インターネット上で市の健診情報や自身の健康記録などをまとめて管理できる「らくらく健診」を提供しています。ぜひご利用ください。



令和5年度検診・健診ガイド



らくらく健診

「骨粗しょう症検診」受けてみませんか

市は、昨年8月から「骨粗しょう症検診」を始めました。骨粗しょう症は、骨密度の低下などにより骨折しやすくなる状態のことです。特に女性は、閉経等により女性ホルモンが減少すると骨密度が低下しやすくなると言われています。骨粗しょう症は自覚症状がなく、骨折するまで気付かないこともあります。自分の骨の状態を早めに知り、骨粗しょう症を予防しましょう。

検査方法▶X線フィルムを用いた検査または超音波検査(医療機関により異なる)

対象/費用▶令和5年度中に40・45・50・55・60・65・70歳になる女性/1,000円

※対象者には、受診券を送付します。同封冊子記載の協力医療機関に電話などで予約が必要です。

特集 ケンシンのすすめ

- がん検診
- 特定・長寿健診
- 成人歯科健診
- 骨粗しょう症検診
- 女性健診

☎保健福祉センター医療健診課健康診査・がん予防・新型コロナウイルス対策係 ☎(260)5662 ㊟(260)1156

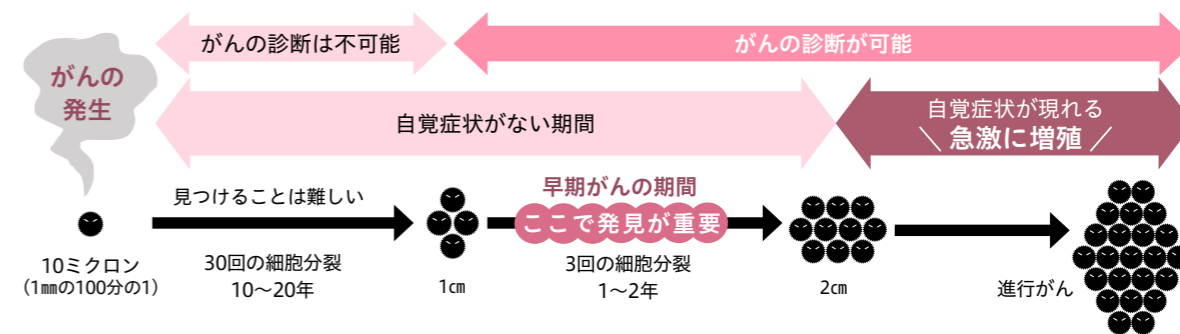
●●健(検)診はどうして必要なの●●

日本人の死因の約5割はがんや心臓病、脳卒中などの生活習慣病です。初期の生活習慣病は自覚症状がないことが多いため、気付いたときには病気が進行している可能性があります。生活習慣病の予防と早期発見・治療に大切なのが、定期的な健(検)診です。

●がんは早期発見であれば約9割は治癒

がんは1<sup>センチ</sup>程度の大きさにならないと発見が難しいとされています。1<sup>センチ</sup>程度になるのに10~20年かかると言われ、自覚症状はほとんどありません。しかし、その後に2<sup>センチ</sup>程度の大きさになるのはわずか1~2年。

そこから自覚症状が現れ、急激に増殖することもあります。2<sup>センチ</sup>以下の早期に発見できればほとんどの場合治癒します。自覚症状がないうちに、年1回は検診を受診することが大切です。



●健(検)診から治療などにつなげます

※令和2年度に大和市が実施した健(検)診の結果より。

がん検診をきっかけに、「がん」が見つかった人

174人

がん検診(肺、胃、大腸、乳、子宮)は、1次検査でがんの疑いがある場合、要精密検査者となります。精密検査を受けた延べ4,891人のうち延べ174人ががんと診断されました。

特定健診の結果、「特定保健指導」の対象者

1,071人

特定健診の結果(血圧、血糖、脂質、喫煙歴など)を踏まえて、メタボリックシンドロームやその予備群の人などに特定保健指導を実施しています。